

新たなまちづくり組織発足＝田川地区まちづくり協議会＝

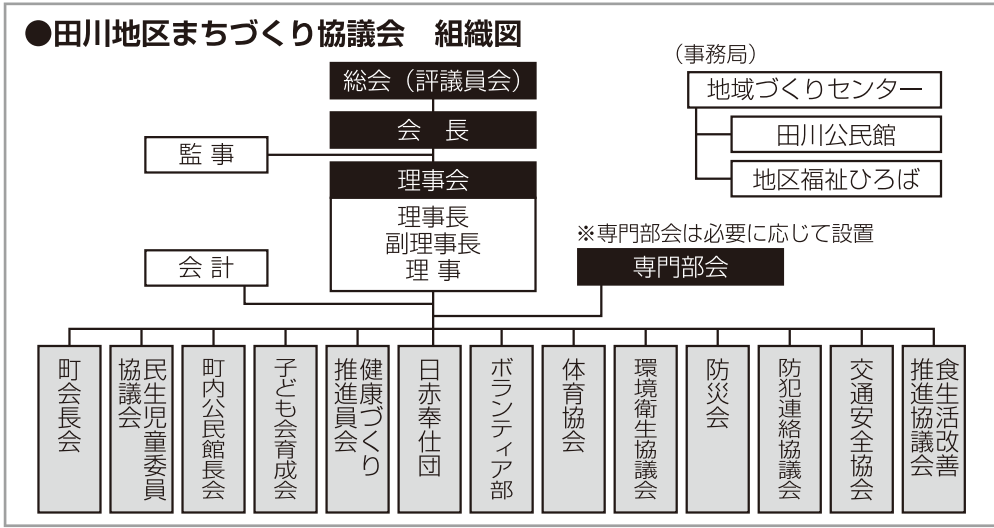


| | |
|-------------|---------|
| 平成30年7月1日現在 | |
| 総世帯数 | 1,881世帯 |
| 総人口 | 3,762人 |
| 男 | 1,824人 |
| 女 | 1,938人 |

5月24日(木)、従来の理事会に代わる「田川地区まちづくり協議会」が発足しました。その目的は、多様な事業をより円滑に、効率的に運営していくことです。新しい協議会では、「専門部会」を設置し、事業を推進してまいります。当面は、「楽育事業推進部会」「子ども安全環境推進部会」「健康と福祉のまちづくり推進部会」「サロンの事業推進部会」の4部会で取り組んでいくこととなります。特に「青少年の健全育成」「地域包括ケアシステムの構築」は、当地区の最重要課題に

田川地区まちづくり協議会の設立

田川地区まちづくり協議会
理事長 堀内正雄



位置付けていますので、慎重に、迅速に協議してまいります。他にも「防災」「歴史・文化」「自然環境」など、さまざまな課題はありますが、順次、皆さんのご意見、ご提案をお聞きしながら進めてまいります。

- 田川公民館 五部門委員紹介**
(平成29年4月～31年3月)
- ◆**運営委員**
 - 委員長 堀内 正雄
 - 副委員長 田中 孝幸
 - 神戸 高光・村瀬 幸司
 - 野本 晃大・山本 弘
 - 水野美知子・櫻井 昇
 - ◆**館報編集委員**
 - 委員長 野本 晃大
 - 副委員長 山本真由美
 - 越山 明都・村瀬 幸司
 - 斉藤 辰也・岡村 龍治
 - 立澤 祥子・宮城 好美
 - ◆**図書・視聴覚委員**
 - 委員長 水野美知子
 - 副委員長 岩月 祥子
 - 浅輪 美恵・染合恵理子
 - 佐野 真恵
 - ◆**文化委員会**
 - 委員長 山本 弘
 - 副委員長 今井 国雅
 - 浅輪 守・浅輪美代子
 - 山中生美子・浅輪 真二
 - 相澤真由美・平井 京子
 - ◆**気楽に運動委員会**
 - 委員長 櫻井 昇
 - 副委員長 小池 弘子
 - 平澤 悦子・藤森 明子
 - 宮澤由美子・片山 英治
 - 大沢 潤子

田川地区に 住民バンド誕生

公民館の講座をきっかけに結成された「たがわばんどAUBE(オーブ)」が注目されています。5月のまちづくり協議会総会後の懇親会にゲスト出演したのを皮切りに、6月26日(火)のいきいきサロンでも初コンサートに成功させるなど、活躍の場が広がっています。

**たがわばんど
AUBEの紹介**
バンドマスター
渋川 佳男(清上)



昨年度、田川公民館で「ワインと料理を楽しむ講座」という催しがあり、たまたま参加者のなかに楽器経験者が何人かいたことから、「バンドを作りませんか」という話が持ち上がりました。

「そりやいいね」ということになり、瞬く間に7、8人が集まり、昨年の12月に最初の顔合わせを行いました。いろいろな楽器を演奏する人が集まり、田川地区にはこんなすてい人たちがいるんだという驚きと、これからどんな演奏をするんだろうという期待感が湧いてきたのを覚えています。

バンド名は「AUBE」に決まりました。フランス語で「夜明け、はじまり」といった意味です。

バンドの規約も作り、「ワインと料理と音楽演奏を通じて交流で楽しく仲間づくりを進め、笑顔と笑いのある演奏で、田川地区をより明るく暮らしやすい地域にすることを目的に掲げました。

月1回の合同練習を重ね、5月と6月にはコンサートも経験し、好評をいただいたこ



たがわ水辺を守る会と田川公民館共催による「水辺の生き物観察会」が5月19日(土)、西島川にて行われ、子ども21名、保護者や関係者合わせて約50名が参加しました。

**ドジョウが出てきて
こんにちは!**



網などで、岸辺や水の中にいる生き物をつかまえて公民館に持ち帰り、種類別に数を集計し観察しました。ドジョウ、トノサマガエルなどが見つかり、みんな大喜びでした。

とで、たいへん励みになりました。これから秋の文化祭に向けて、一生懸命練習をしてまいります。田川地区の皆さまには、このバンドを末永く応援していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

**** 田川地区球技大会 結果 ****

| | | | |
|--------|-------|------|------|
| ソフトバレー | 39歳以下 | 優勝 | 渚本村② |
| ソフトバレー | 3位 | 渚本村① | |
| 40歳以上 | 優勝 | 渚宮本 | |
| 3位 | 渚上 | | |
| ソフトボール | 優勝 | 渚本村 | |
| 準優勝 | 渚町 | | |

舟着場

▼「BARの街・松本」といわれるだけあって、酒文化が根づいていることを実感している。彼らは実にスマートに酒を愉しむ。オープンマインドで居合わせた隣人との時間も愉しく共有している。彼らの日常にお酒を愉しむひとときが組み込まれていることをうれしく思う。▼酒を口にされない方からみれば、ただ飲んでいただけに見えるかもしれないが、グラスのなかの酒は、経過した時間や飲み手にとっての思い出だったたりもする。▼人生での祝いの席、悲しみの席には必ず酒がある。悲しみの席で酒なんて——と思った時期もあったが、徳ぶ酒もあるのだと、大人になってから理解した。▼私はワインを口にするとき、脳内で旅行をしている。海外のブドウ畑や醸造所の風景を思い描きながら飲んでいく。シャンパーニュの星屑のような繊細な泡が、天に向かって昇り続ける様を眺めていると、悲しみも吹き飛び、背筋が伸び、二気も吹き飛んでくる。明日への活力にもなる。

(館報編集委員 立澤)